

CLAIR トピックス

——最近のクリアの動きを短くまとめて紹介します



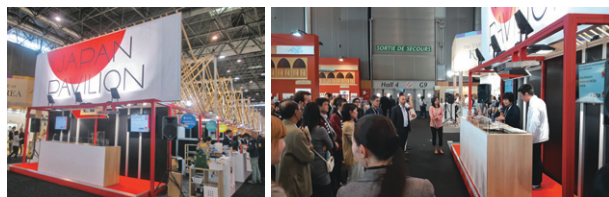
パリ事務所

欧州最大級の総合食品見本市「SIAL2016」にて日本食 PR

10月16日～20日、フランスのパリ郊外にて欧州最大級の総合食品見本市「SIAL 2016」が開催されました。SIALは隔年で開催され、2016年は104か国から約7,000の出展者が集結しました。

日本貿易振興機構（ジェトロ）が設置したジャパンパビリオンなどで、静岡県、京都府、兵庫県、鳥取県、島根県、広島県、富山県などがブースを設置し、地域産品のプロモーションを行いました。クリアパリは兵庫県、広島県の活動支援を行いました。

SIALは、フランス国内のみならずヨーロッパ各国からバイヤーが集まる見本市ということもあり、来場者からは自国での流通ルートについての質問が多く寄せられました。また、日本茶、日本酒など同類の産品も多く出展されていたため、各地域や各産品の特徴を踏まえた上でプロモーションしていくことが重要であると感じました。SIALを足がかりとし、地域産品が世界中に広まることを期待しています。



シドニー事務所

豪州多文化主義政策交流プログラムを開催しました！

シドニー事務所は10月17日から22日までの6日間、「豪州多文化主義政策交流プログラム」を開催し、日本国内の自治体職員7名が参加しました。

このプログラムは、全人口の約4分の1が海外生まれの豪州における多文化主義施策を実地で学ぶことを目的に毎年開催しており、今年度は「教育」「医療」「防災」「雇用・就労支援」「人材育成」をテーマにニュー・サウス・ウェールズ州政府機関や地方自治体、非営利団体（NPO）などを訪問したほかビクトリア州からも講師を招き、計10団体と意見交換を行いました。

参加者らは、積極的に質疑応答を行うなど、直接、現場の声に触れることで、日本の多文化共生に対応した地域づくりに生かせる実践やアイデアを学びました。



ロンドン事務所

ユネスコ世界ジオパーク国際会議 2016 が英国で開催

9月26日から30日にかけて、「ユネスコ世界ジオパーク国際会議 2016」がイギリス南部のトキーで開催されました。ジオパークとは「大地の公園」を意味し、地球を学び楽しむことができる場所です。約200か国から約700人が集まり、日本からは洞爺湖町、白山市、静岡県、熱海市、兵庫県、和歌山県、室戸市、隠岐の島町、島原市、鹿児島市、霧島市などジオパークを推進する地方自治体が参加。世界の事例・取り組みなどを学び、関係者と交流を深めました。



ソウル事務所

地酒 PR を通して熊本地震の復興支援！

10月2日、日韓最大の草の根交流イベント「日韓交流おまつり 2016 in Seoul」が開催されました。約6万人の来場者を前に、青森県五所川原市、鳥取県、愛媛県、長崎県など12の自治体がブースを出展し、日本の地域の魅力をPRしました。

クリアソウルでは、日本からミス日本酒を招聘し、試飲を通じた地酒のPRを行うとともに、熊本地震の被災地支援のための募金活動を行うブースを出展。集まった義援金約199万ウォン（約18万円）は、在韓日本大使館を通じて被災地の住民に届けられます。





ニューヨーク事務所

JET 経験者のニューヨークキャリアフォーラム開催

10月15日(土)、ニューヨーク地域に帰国したJET経験者を対象としたキャリアフォーラムが開催されました。

当日は、人事担当部署で働くJETAA NY支部メンバーによる履歴書の書き方や面接での対応などについての講義や、パネルディスカッションが開催されたほか、参加者と日系リクルート会社との面談が行われました。また、フォーラム終了後は、帰国者歓迎レセプションが開催され、日系企業や在ニューヨーク県人会など約90名が参加し、JET経験者のネットワークを広げる場となりました。

日本に関係する仕事に就きたいという希望を持つJET経験者は多く、また、仕事に限らず、引き続き日本との関係を持ち続けたいとの声が多く聞かれました。



シンガポール事務所

シンガポール・マレーシアを舞台に「地域間交流促進プログラム」を実施!

9月下旬から10月上旬にかけて、シンガポール事務所は、地域の国際化を担う人材の国際感覚の涵養を図るとともに、今後の地域間交流の契機とすることを目的に「地域間交流促進プログラム」を実施しました。今年度は、日本との外交関係樹立50周年を迎えるシンガポール、そして、ムスリム市場をターゲットとする訪日観光インバウンドおよびそのハラール対応の点において自治体関係者に注目されているマレーシアを訪問国としました。

日本の自治体関係者から構成された総勢21名の派遣団は、政府・自治体関係機関や現地日系企業の訪問・視察、現地学生らとの文化交流・意見交換などを通じて、両国の政治、経済、文化などの現状や課題を多面的に理解し、今後の自治体間交流や海外展開の施策立案にあたっての知見を深めました。



北京事務所

第2回日本伝統工芸品展 in 北京

10月14日から18日まで、「第2回日本伝統工芸品展 in 北京」が開催され、沖縄県など9事業者が出展しました。漆器、陶磁器、鉄瓶、茶器、木工製品など高級志向の工芸品が展示、販売されました。開催期間中は抹茶の野点が実演され、呈茶を体験した来場者からの評判は上々でした。クリア北京事務所のブースでは、観光のPRポスター掲示やパンフレット配布などで、日本各地の魅力をPRしました。今回の工芸品展では、期間中のべ1,300人が訪れ、約162万円(約2,510万円)の売り上げがありました。その中でも最も高額なものは、抹茶の野点実演の際に飾られていた輪島塗の御園棚が61万円(約945万円)でした。ほかにも8.4万円(約130万円)の富山県高岡市の銀瓶が売れるなど、中国の富裕層における日本の工芸品の人気の高さがうかがわれました。



交流親善課

海外自治体幹部交流協力セミナーを実施しました!

中国の自治体幹部6名を迎え、11月8日から12日までの行程で、滋賀県において「地方の観光振興」をテーマに、視察などを実施しました。滋賀県が誇る観光名所と、滋賀ならではの観光施策に感銘を受けた参加者からは、琵琶湖が日本一の広さであることから「琵琶湖 No.1 を宣伝する」「日本にきて琵琶湖を見ないのは日本に来ていないに等しい、というスローガンを掲げる」など、刺激的な意見が数多く出されました。滋賀県からは、海外に向けた情報発信の参考にしたとの感想を頂きました。

JET 事業部

JET プログラム動画コンテストの受賞作品が発表されました!

JETプログラム30周年記念事業のひとつとして、「JET参加者が伝える日本の地域」をテーマに動画コンテストを行って参りましたが、全国各地から秋冬編には50作品、春夏編には57作品の合計107作品ものご応募をいただきました。どの作品も素晴らしく、順位を付けがたいものではありませんでしたが、このたび、有識者による審査委員会を開催し、受賞作品が決まりました。受賞作品および今回惜しくも受賞を逃した作品についても、下記HPに掲載しておりますので、是非ご覧ください。

URL : <http://jetprogramme.org/videocontest/>